



fu fu fu 幸せを感じたとき...

社会福祉法人しがらき会

《法人事務局》信楽青年寮内

TEL 0748-82-0588

FAX 0748-82-0961

URL <https://www.shigarakikai.or.jp>

E-Mail shigaraki@miracle.ocn.ne.jp

信楽青年寮
ワークセンター紫香寮
しがらき地域生活支援センター
甲賀地域働き・暮らし応援センター

『(福)しがらき会の歩みと現状・今後の展望について』

法人常務理事 上田 清樹

信楽町内の皆様方には、平素より当法人ならびに各事業所の運営に対し、格別のご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。お陰様で我が法人も前身の県立児童施設「信楽学園」を含めると創立以来、今年で七十一年を迎えさせていただくことになりました。

この間、創設者故池田太郎氏の思想「はたらくことをとおして、障がいのあるひと一人ひとりとつとめての自立を地域で実践し、一住民として当たり前に暮らし、自然とまちに溶け込んでいくこと」を念頭に志し、法人理念である『四つの願い』(一、はたらくこと、二、無用の存在ではなく有用の存在であると思われたい。三、みんなと一緒に暮らしたい。四、楽しく生きたい)の具現化を地域の皆様と共に継承してまいりました。このことは我が国における障害福祉分野においても他に類を見ない事象であり、今こそ耳にするようになった言葉「共生社会」に値するものであると思えます。

このように申し上げるとおそろく地元の人たちは「へへそんなんや」程度の反応をされる方が大半であると思えます。何故ならば、信楽では障がいのある人たちが当たり前前に地域で働き暮らしておられる姿を当然の如く目にしてきたからであろうと思われまします。この当たり前の姿に、改めて関係者一同に成り代わり厚く御礼申し上げます。

昨年の秋、町内の民生児童委員さんへ、私共法人・施設について、お話をさせてもらえる機会を頂戴しました。これまで何となくご存じであった方、あるいは町内にながらも近隣に施設やグループホームなどもなく、障がいのある人も見かけない、といったことから初めて知っていたいた方もおられました。その中でも申し上げたことではありますが、現状としては世間で言われているように、高齢・重度化は障がいの障害福祉制度では対応が難しく追い付

いていないのが現状です。さらには、全ての業界でも言われていることではあります。特に福祉従事者「支える人」が慢性的に不足しており、これからの福祉が危惧されます。多くの福祉事業所では、「猫の手も借りた」というのが本音ではないでしょうか。

ひと昔前ならば想像すらしなかった雇用形態として、現に数十年前から障がいのある方が障がい者・高齢者支援施設で職員として働いておられます。また、地域を見渡せば老々介護や老障支援、逆の障老介護の他、近年クローズアップされるヤングケアラー問題等々、我が町でも決して他所事ではありません。

顧みれば地場産業に支えられ、地域と共に暮らして来たことを思うと、これからは地場産業だけを頼りにするのではなく、地域の人で地域の人を支える仕組みづくり、すなわち福祉産業にも積極的に着手ご参画いただくことで、これからも共に安心して安全に暮らせるまち信楽を未来へ継承できるのではないかと考えています。

我が法人の最終到達目標は、私共のような福祉施設が自然と地域の中へ、姿を変え溶け込み消えてゆくことにあります。これがこそが「真の共生社会」であると思えます。「どうすれば実現できるのか。今、何ができるのか」を念頭に、利用者さんの「したいこと、出来ること」を大切に、活かしながら努めて参りたいと思っています。

「陶都しがらき」で障がいをもちながら住民のひとりとして、当たり前前に地域で働き、暮らし続けて優に半世紀を超え、三半世紀に迫る歳月になろうとしています。住み慣れたこの地「しがらき」は、利用者さんにとっても大切なふる里であり、安心して安全に楽しく暮らせるまちです。

これからも変わりなく当たり前前の暮らしが出来るよう、共に支え合いながら豊かな心を育みもち続けていきたいと願っています。



好きなことがある
じぶんがじぶんである
あるがままに
ありのままに表現する

心地よい場所がある

今ある時間をかたちに
つながりをかたちに。。

造形物研究所



信楽青年寮 だより

大寒の候、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。世間ではコロナウイルスの第八波により、医療機関の逼迫した状況が続いております。信楽青年寮でも十二月の中旬にコロナウイルスの陽性者が発生し、感染対応に追われた年末年始となりました。幸いにも利用者の皆様、職員共に重症者も出ることもなく、無事、収束を迎えることが出来ました。ただ、第八波の収束の兆しはまだまだ見えないため、今後も感染対策に努めていきたいと思えます。

さて、寮内でコロナが発生する少し前に、長野の『GALLERY 陶園』さんの二階をお借りして、信楽青年寮『造形物研究所』展を開催させて頂きました。多くの皆様にご来場頂きありがとうございました。信楽青年寮で生み出された作品を通して、皆様と交流を出来たことを非常に嬉しく思います。コロナ禍により、以前のような地域の皆様との交流の機会は減少してしまいが、これからも町内の皆様と様々な形で交流をしていきたいと考えていますので、どうぞ、宜しくお願い致します。(古谷記)

スタッフ募集 (正規・パート)

しがらき会では職員を募集しています。

障がいのある人を支える仕事に興味がある方は、下記までご連絡をお願いします。お待ちしております。

詳しくはQRコードを読み取って下さい!!

募集職種 : 支援員・ヘルパー・看護師
世話人・洗濯業務

連絡先 : しがらき会法人事務局
0748-82-0588

担当 : 中井・岩永



ワークセンター紫香樂より

こんにちは

外に出て顔を上げると空気がカラッと乾いた、清々しい冬の空が広がっています。
ワークセンター紫香樂では、櫛を使った和紙商品の販売を漉き上げから製作まで手作りして取り組んでいます。町内では、『滋賀県立陶芸の森、産展ショップ、青木園、のろみあわいさ、かまーとの森、ギャラリイ喫茶みどりの家、ギャラリイ高原、澤善、陶芸村、陶珍館（三彩）、緋色の商店街、山上陶器、のーふ』さんと多くのお店で販売をさせて頂き、ご愛顧頂いております。他にも町外十四件、県外でも三件と、多くのお店で和紙商品を販売させて頂いています。



信楽町内のお店は特に、地域の中でのしがらき会ワークセンター紫香樂というご理解が深く、お世辞にも和紙商品の販売利益率は高いものではないのですが、店舗内でも目立つところや広い展示スペースを頂き、積極的に和紙商品を取り扱って下さっています。

しがらき会の願いが種をまき、地域の皆さんによって水が撒かれ、信楽という地面にしっかりと根を張っているような温かい気持ちにさせて頂いております。これからもお客様、販売して頂いている地域の皆さまの想いに応えていけるように、利用者さんと一緒に、より良い紫香樂和紙商品を作ってくださいと手を取って頂けるよう、努めていきたいと考えています。

(市来記)

和紙製品のお問い合わせは
☎ 82-2198



しがらき地域生活支援センター

だより

しがらき地域生活支援センターでは、障がいのある方の「自分らしく、当たり前前に暮らしたい」という思いの実現を目的として、特定相談支援事業『うろむろ』・居宅介護事業『らいふ・かれっじ』・共同生活援助事業『はあと・ふあくとり』の事業を展開しました。

日々の暮らしの中の利用者さんの思いや希望、困りごとを受け止めるために、この三つの事業が連携しながら機能することで、より豊かな暮らしができるように取り組んでいます。

ここ数年、新型コロナウイルスの影響で、感染防止対策の観点から、利用者さんも様々な制限を余儀なくされた暮らしが続いていました。しかし、しがらき地域生活支援センターでは、「新しい生活様式」を取り入れながら、利用者さんの「あんなことしたい」、「こんなことできたら」を少しでも実行できるように、満足を得られる暮らしを応援し、個別の余暇や各ホーム行事、イベント行事など実施できるように取り組みました。センター行事企画では、六月にうちわ作り、八月にかき氷作り、十一月に上野でハイキング、十二月にプチケーキ作り、一月に建部大社へ初詣など楽しい行事を実施しました。コロナ禍の暮らしの中では、いままで当たり前だったことを実行するにも工夫や努力が必要になることが多くあります。

これからもしがらき地域生活支援センターの支援が、利用者さんの思いに応え、安全、安心に繋がるように、ご本人、ご家族、地域の方々、職場、関係機関と連携して取り組んでいきます。みなさまのご理解、ご協力、ご指導の程、宜しくお祈り致します。

(平井記)



甲賀地域働き・暮らし応援センター

だより

甲賀地域働き・暮らし応援センターでは、甲賀地域障害児・者サービス調整会議の「就労支援部会」の事務局を担っており、今回は、「就労支援部会」の紹介をさせていただきます。「就労支援部会」の目的は、作業所等の就労に向けた取り組みや、就労継続支援体制についての事例検討を通して課題を明確にし、就労支援サービスの質の向上や不足しているサービスの開拓等に繋いでいくことにあり、障がいのある方の就労促進、自立と社会参加の推進をしております。

「就労支援部会」での取り組みの一つとして、「甲賀地域版ジョブガイダンス」という事業を毎年実施しております。企業就労を目指して、支援事業等を利用しておられる方、または在宅の方等、企業就労するために必要な職業スキルや社会適応能力の向上を目指すし、障がいのある方々の「働きたい」思いを実現するために、働く前の準備段階として必要な取り組みを行っております。

「甲賀地域版ジョブガイダンス」では、就労マナー講座や履歴書の書き方、模擬面接（企業に面接官を依頼）などの内容で、年に三回の開催を行ってまいりました。今年度は新しい取り組みとして、就労支援部会構成員の皆さんに事前アンケートを行い、頂戴したご意見を反映するカタチとして、より多くの皆さんにご参加いただける内容を検討してまいりました。すでに二回の開催が終了していますが、滋賀障害者職業センター様、ハローワーク甲賀様から講師をお招きし、「働くための自己理解とは」、「働く条件の希望を考えよう」といったテーマで、いずれも大変ご好評をいただいております。三月には、一般企業への会社見学会も予定しております。

企業見学会につきましては、ここ数年新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、実施ができない状況でありましたが、ご快諾して下さった企業様の受け入れもあり、今年度は数年ぶりの開催となるため、充実した会社見学会となるよう現在、内容などの検討を進めているところです。

この事業を通して、一人でも多くの方に興味をもっていただき、「働きたい」、「働き続けたい」思いが実現できることがあれば幸いです。

ジョブガイダンスの詳細につきましては、事務局（当センター）までお問い合わせください。（岩永記）

甲賀地域働き・暮らし応援センター

住所：甲賀市水口町暁3-4-4

☎ 0748(63)5830

職員コラム

よく言われる言葉に「人の顔色を伺う」というものがある。顔色みて喜怒哀楽を感じ取り相手の気持ちを慮る、といった意味合いであろうが、コロナ禍の中、人と人との関わりの中でマスク生活が当たり前になった昨今、街を歩いていても職場や学校等のコミュニケーションの中においてもその顔色や表情を伺い知る事が乏しくなってきた事を感じる。人間は人と人との関わりの中で一喜一憂する。人の笑顔に癒され涙に感動や悲哀を受け止めようとする。そういった感受性が今を生きる子供や青年期の若者に、このマスク生活が少なからず影響を及ぼしてはいないかと危惧する所である。最近のカメラやスマートフォンでは人の笑顔を感じとり（正確には顔の表情を認識し）シャッターが切られる機能があるとか、やはり笑顔は誰もが求める、心を温める特効薬なのかもしれない。早くマスクから開放され、人の笑顔に癒されたいものである。

(M・N)

ダブルクリック（私の視点）

「今日の晩御飯何？」と笑顔の利用者さんが献立を聞きに厨房に来られます。手作りハンバーグ・ちらし寿司・スパニッシュオムレツなど青年寮には美味しそうなメニューが沢山あります。

私も「今週のメニューは何かな？」と献立表を見るのをいつも楽しみにしています。作る工程を考えたり調べたりする事が好きなので、その日まであれやこれやと構想します。当日は、準備万端でライブステージの様な感覚で調理に挑みます。

揚げたり・炊いたり・炒めたりを段取りよく進めていくワクワクドキドキの時間です。美味しい料理を作って利用者さんに食べて頂き、幸せな時間を過ごして欲しいという思いで仕事をしています。

私自身も美味しい物を食べる事が大好きなので常にグルメ探究しています。先日気になっていたshopのグルメ福袋をお正月に購入しました。福袋に「Food is Over」「Food is Life」「Food is Future」と書かれていて、「何て良い言葉が書いてあるのだろう！その通り!!」と微笑んでしまいました。

二〇二三年、この言葉を思い浮かべながら調理に励みたいですね。

(K・A)